

S プロジェクトサポート内容と今後のサポートモデル

— シニアが学校にOSSをサポートする —

NPOシニアSOHO横浜・神奈川 副代表理事 村田 光正

QYQ06364@nifty.com

キーワード：OSS, OSP, 教室ネットワークサーバー, 生徒パソコンファイルサーバー, ネットブート, USBブート, デュアルブート, NPO, シニア, インテグレーション企業, サポートモデル

1. サポート内容の概要

1. 1 サポートのスキーム

OSPパッケージの普及展開に貢献するために、NPOとして参加を目指し技術力を補完するために専門インテグレーション企業と連携したサポートスキームを構築する。

1. 2 サポート対象校とサポート内容

サポート対象校は下記2. 学校別サポート内容にある6校である。高等学校が大半である。私立が4校で公立が2校である。

サポート内容は、2校を除いてコンピュータ教室へのOSPパッケージ導入である。

OSPパッケージをCD-ROMブートで使用する学校は、1校（福島県立福島高等学校）で他の4校はUSBブート、ネットブート、HDDブートの内一つのブート方式である。教室ネットワークサーバー、生徒パソコンファイルサーバーを別々に構築運用する学校が3校である。

教科情報でのプログラミング教育用のソフトの他に、英語、数学、音楽、美術などの教科での利用のためのアプリケーションソフトをカスタマイズした。

OSSの校務処理への利用は、具体的なサポート対象はない。

1. 3 サポート体制

NPO法人 シニアSOHO横浜・神奈川（略称：SVYK）が委託を受け、専門インテグレーション企業であるオープンソース・ジャパン株式会社（略称：OSJ）に一部を再委託した。OSJには、青森オフィスと宮崎オフィスがありそれぞれ青森県と宮崎県の学校サポートを担当した。

各校へは、月一度（必要の場合は追加があり）の訪問サポートを行い、並行してMLおよびネット commonsによる遠隔サポートを実施した。これにより各校およびサポートメンバーの情報伝達の迅速性と情報共有が確保できる。

2. 学校別サポート内容と導入コンセプト

2. 1 八戸工業大学第一高等学校

OSP基本パッケージのネットブート化、LDAP認証（サーバー/クライアント）、samba,netatalkによるサーバー立ち上げ、学校が行ったアプリ追加(Squeak)を含む最終システムのカスタマイズ作業を行った。

コンピュータ室が三つあり、1年生がUNIXによるOSSを利用する授業を行い、2年生はMS Windowsを3年生はMacintoshを利用する授業を行う。

いろいろなOSを体験することができる。

2. 2 弘前学院聖愛中学高等学校

OSP基本パッケージのUSBブート化、LDAP認証、Windows MeとOSPのデュアル活用の実施、サーバーマウントのショートカット作成等に関する学校における専門的な研修とMLおよびネット commonsによる遠隔サポートを行った。

生徒パソコンは主メモリー128MBのものがあり、Debian LinuxとWindows Meとを起動時に切り替えてOSSを利用する。USBメモリー起動は基本パッケージとしてはできているが、将来は最終カスタマイズをしたUSBを生徒パソコン本体の中に収納しCD-ROMやHDDの故障などのトラブルから切り離れた利用方法を行う。

2. 3 福島県立福島高等学校

音楽（作曲）の授業のためにRosegardenとAudacityソフトのインストール、クライアント側からネットワークプリンタ利用等の内容をカスタマイズしたCD-ROMを作成する。Rosegardenより音楽を正常に再生することが12月末までにできず、CECの支援により実現する。USBブート化は生徒パソコンがBIOS非対応のため中止する。



写真1 コンピュータ室



写真2 GIMP 作画画面

